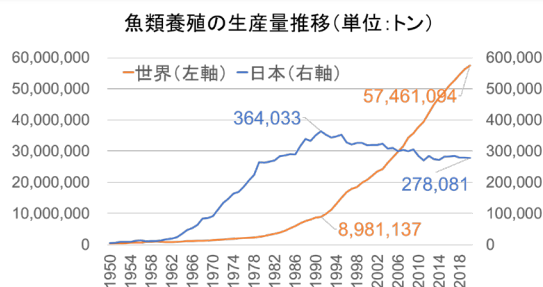


生殖幹細胞操作技術を駆使した世界唯一の養殖魚「カイジ」の創出

代表機関：株式会社さかなドリーム
共同研究機関：国立大学法人東京海洋大学
実施年度：2025年度～2026年度（フェーズ2）
研究代表者：松下芳之

我が国で生産される養殖魚は「天然魚の代替品」に位置付けられており、結果として魚価の向上ができず、養殖業者の収益性は長らく厳しい状況が続いている。本研究開発では東京海洋大学の独自技術を用いて、唯一無二の養殖魚の作出と育種、および量産体制の確立を目指す。

背景・目的



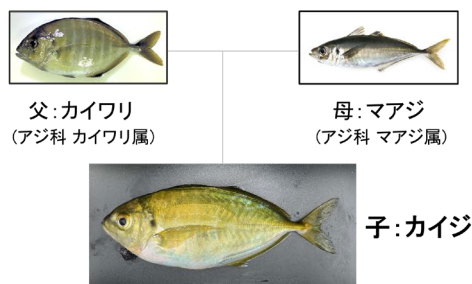
世界と日本の魚類養殖の現在地

日本の魚類養殖の生産量は1991年をピークに80%まで減少した。一方で、世界では同じ期間で6倍以上に増加している。日本の養殖業再興には、天然魚との差別化を実現できる高付加価値な魚が必要となる。

研究内容

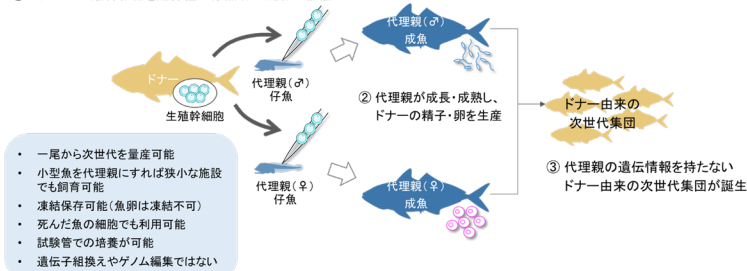
世界唯一の養殖魚「カイジ」の作出

非常に美味であるが殆ど流通しない「カイワリ」と養殖技術が確立した「マアジ」を交雑させることで、極上の味わいと飼いやすさを併せ持つ「カイジ」を生産することに成功した。12か月齢時点でマアジの1.5倍程度まで成長し、先天性不妊であることから養殖適正が高いと考えられる。



東京海洋大学の革新的育種技術「代理親魚技法」

① ドナーの生殖幹細胞を近縁種の仔魚(代理親)に移植



本技術によって、希少魚を1尾でも入手すれば、次世代集団を生産できる他、産卵期が異なる魚種の交雑を自然交配で実施できる。魚類の交雑育種における課題であった安定的な生産を実現し、養殖でしか実現できない「ハイブリッド魚」のポテンシャルを解放する。

<代表機関概要>

- 社名：株式会社さかなドリーム
- HP：<https://sakana-dream.com/>
- 所在地：千葉県館山市